

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第21回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2023年 **12**

学生広報チーム × 株式会社 宇治吉田運送 お客様や社員の「心に寄り添う」をモットーに

現役の大学生として、大学の魅力を発信し、地域の課題解決活動にも取り組む「学生広報チーム」が、様々な方々とのつながりを大切に地域密着型の事業展開をされている「宇治吉田運送」取材しました。

【地域の拠点としての宇治吉田運送さん】

宇治吉田運送さんは、その会社名から「運送業」のみを営まれているのかと思いきや「運送業」に加え、観光地を巡るバスツアーなどの「旅行業」、社内の倉庫を一部リノベーションし作られた縁庵を活用し「カフェ」や「茶道教室」など、非常に幅広く事業を展開しておられました。幅広い事業展開に驚き、その理由について取材を進めたところ、今に至るまでの会社が歩まれた軌跡を伺うことができました。

バブル崩壊時、社長を務められていた吉田實子会長は、会長のお父様であり前社長からの「運送業だけにこだわるな」という言葉と、ご自身の「なんでもやってみる」という精神で、全社員を守りながら経営難を乗り越えるため事業を幅広く展開してこられたとの事でした。お客様や運搬物だけでなく、関わるすべての方や物に対して「心を添える」事を決して忘れず歩みを進めてこられた宇治吉田運送さんは、多くの関係者から愛され、地域の拠点として宇治に存在しておられます。



縁庵

【受け継がれるもの】

岡麻子社長は昨年、吉田實子会長からのバトンを受け取られ、三代目社長となりました。全く違うキャリアや考え方をお持ちのお二人でしたが、会社への「思いを受け継ぐ事」や「社員を大切にすること」について、共通の熱いものをお持ちである事がひしひしと伝わってきました。お二人を取材するなかで会社理念と会社ロゴにもなっている「常に心を添えて」「ご縁を大切に」という言葉を何度か耳にしました。「引越し関連の仕事は、全て社員が対応しており、お客様と物件事情を熟知していることから、リピーターも多く『宇治吉田運送さんなら安心できる』との声をもらっている」と嬉しそうに話されました。また、業種的に生活が不規則になりがちで、お客様と会社とをつないでくれている社員自身が安心安全に働けるよう、社員に向けて健康で栄養価のあるお弁当を会社が一部負担し、格安で提供などもされていると伺い、こうした社員が生き生きと働くことの出来る環境づくりや、お客様や地元の方と会社とのつながりを日々大切にしたいという代々受け継がれてきた思いが、同社の笑顔あふれる温かな雰囲気を作っており、同社の原動力になっている事を肌で感じました。



取材の様子

【取材を通して“つながる”思い】

「自分は自分なりの『つなげかた』を見つけご縁を広げていきたい」という岡社長のお言葉や、「大型車を運転する＝男性」という固定概念を社長さんや会長さんは持っておらず「男女関係なくどんな人でも平等だ」という吉田会長のお言葉が特に印象に残っています。お二人は、私たちがなりたいと思う大人そのもので、自分の意見を大切にしながら人のために様々な事業に取り組まれている事に感銘を受けました。私たちも学生広報チームの活動を推進するなかで出会う方とのつながりを大切に、「自分たちにしかできない」活動を続けていきたいと思いを新たにしました。



お茶室前で記念撮影

【今回の取材先】

宇治吉田運送

1962年創業、2022年4月に設立60周年を迎えられた。同社では、運送業だけでなく、旅行業やカフェの経営、茶道教室の開催など、幅広く事業を展開しておられる。お客様と会社とをつなぐ社員が安心して働ける会社作りを目指す。



縁庵入口

【今回の取材担当】

学生広報チーム

高校生などに向けて京都文教大学の魅力を全力で発信する、入試広報課直属の大学生団体。企業や行政のお力をお借りし、地域と連携した活動にも積極的に取り組んでいる。



右から、宇治吉田運送 吉田實子会長、大谷愛さん(臨床心理学部1年次生)、寺本陽葉さん(こども教育学部3年次生)、宇治吉田運送 岡麻子社長。

《学生広報チームインスタグラム》



⑧GAKUSEI_PR

大学生の活躍や、大学の魅力を発信しています。もしよろしければフォローお願いします。